綿々しんぶん

第２号　アバンティコットン倶楽部　2023年6月1日 木曜日

23年アバンティコットン倶楽部、全国各地で種まきがスタート。



4月29日 長野県佐久市 池田ファームで演奏する瞽女唄演奏家 広沢里枝子さん。※瞽女（ごぜ）とは、室町時代から存在した、三味線を弾きながら唄を歌い巡業する目の見えない女性の旅芸人のこと。

アバンティコットン倶楽部3年目の春。いよいよ今年も全国24ヶ所のみなさまとの棉づくりが始まります。

4月19日、埼玉県小川町の「風の丘ファーム」を皮切りに種まきがスタート。私たちは4月29日の長野県佐久市「池田ファーム」の種まきに行ってきました。

棉づくり3年目の池田ファームでは、信州棉を中心に栽培。昨年収穫した信州棉の種は、今年の主品種として、コットン倶楽部のみなさんの圃場にお送りさせていただきました。今年も信州綿を中心に、大陸綿を含めた全8種、計500株分の種まきを終えました。

池田ファームの種まき当日は、雨予報のなか雨にも降られず、マルチ張り、穴あけ、種まきが順調に進みました。同じ佐久市でコットン栽培を始められる大井さん、コットン倶楽部メンバー永井さんと、大人から子供まで参加するイベントとなりました。また、瞽女（ごぜ※）唄演奏家広沢里枝子さんが、棉の豊作を願い、歌と三味線を、医師の佐々木恵理子さんが沖縄三線を演奏してくださいました。心のこもった歌や演奏を聴いた棉たちの喜ぶ声が聞こえるような1日でした。たくさん元気に育ってほしいです！



手作業でマルチをかける。長野県佐久市



昨年の圃場の発芽率によって種の数を調整した。

次に向けての取り組み

5月1日、栃木県佐野市の川田ファームにて、コットン倶楽部の来期に向けて試作の種まきを行いました。大陸棉、アジア棉、海島棉の計10品種です。

当日の天候は晴れ。品種、土壌状況に応じて播種数を調整し、川田ファミリーと愛犬小太郎君の応援もあり無事終了しました。再び訪れた5月20日時点での発芽率は全体で70％。海島棉がやや苦戦で50％。品種、土壌条件等で生育状況は異なりますが、順調なスタートといえそうです。今後の生育が楽しみです。



川田ファームでの種まきの様子。

<2023年 国内協力綿花畑 >

全国 24 箇所　5/31現在



福祉作業所「ありさんち」との取り組みがはじまる。

今年はアバンティで綿くり機を購入し、群馬県太田市障害福祉サービス「ありさんち」のご協力のもと、昨年収穫したコットンの棉くりを終えました。

はじめは綿くりが進まず機械調整に時間がかかるなど、予定よりも一週間遅れとなりましたが、3月末までに約360キロの棉くりが無事終了しました。作業初めは予定の4分の1程度の進行で苦戦しましたが、作業者のみなさまとスタッフの方々の日々の改善のおかげで、後半には予定数に近い作業量が出来るようになりました。約1か月の作業ではありましたが、ありさんちのみなさまが日々改善を重ね、作業を熟知し、まるで職人のようでした。ありがたいです。

そして綿くりした種は品種、栽培者別に自社保管が出来るようになりました。これからリ・コットンにかかわる作業や綿花栽培における福祉作業所との協業のモデルケースとして、ありさんちと引き続き取り組んでまいります。


綿くり作業の様子。


綿くりされた綿。

綿の豆知識



インド原産といわれる綿花が初めて日本国内に伝わったのは、今より1200年程前、西暦799年、桓武天皇の延歴18 年の頃。7月、三河国に漂着した崑崙人（コンロン＝中国の地名）により、初めて棉の種を得たと、類聚國史に記録されている。

類聚國史によると、延歴18年7月、小舟に乗り三河の国に漂着した。年齢は 20 歳程度であり、言葉は通じない。何国の人であるかを知らず、大唐人等は皆、この青年を崑崙人であると言っていた。その後に中国語を習い、自らを「天竺（インド）の人である」と言い、持ち物の中に実のようなものがあり、これを棉の種と言った。流れ着いた崑崙人がもたらした棉種を紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊予、土佐及び大宰府等の諸国に与えて、棉の種を植え始める・・・

とあります。

アバンティコットン倶楽部は国産棉復活プロジェクトをはじめて3年目。1000年前の感動を伝え続けていけるよう、全国24箇所のみなさまと棉の和を広げてまいります。

綿の品種と今年の栽培品種



綿の分類は品種が多く、自然交配ができるため複雑なのですが、今年アバンティコットン倶楽部で育てている綿の分類と品種は以下の通りです。

①アジア棉系・・・信州棉（※1）と試作2種を育てています。
和棉として育てられる品種も茶棉もアジア棉の分類です。
繊維長が短いので紡績には不向きで布団の詰綿などに向いてます。

②大陸棉系・・・吉田棉（※2）、天使の贈り物（※3）、ギリシャと試作3種を育てています。
アップランドや陸地綿、洋綿とも呼ぶ、中米生まれの分類です。
繊維長が長いので紡績に向き、世界で一番多く栽培されています。

③海島棉系・・・試作で海島棉1種を育てています。
エジプトで多く栽培される繊維長がかなり長い超長綿。
収量は少ないですが、繊維に光沢があり長いため高品質の糸ができます。

※1 信州棉　昨年信州を中心に栽培した棉。繊維長はアジア綿では一番長い。
※2 吉田棉　栽培3年目の品種。兵庫県の吉田さんが10年以上大切に育てていた棉。
※3 天使の贈り物　群馬県みどり市鹿田山の圃場のハウスに届けられた棉。弾けた姿が素晴らしく、まるで天使の贈り物のようだったことから、アバンティが命名した。原産地は不明。

おくもりのコラム

子供達の笑顔と共に家族と！福祉作業所のみなさんと！
そして自然栽培で！銀座の百貨店の屋上で！
全国24拠点で10種類の種まきが終わり、いよいよ
今年の綿の栽培がスタートしました。
綿の殻の帽子をちょこんと冠り渾身の力で土から
芽を出した緑の綿の双葉に勇気を貰っています。
みなさんもこの時期、這えば立て、立てば歩めの親心で、
愛おしく見守ってくれるでしょう。
今年新たな挑戦をします。綿の花から採れた酵母で
つくる『わたのぱん』プロジェクトです。開花の期間が
長いほど酵母は採りやすいそうですが、綿の花は朝陽を
受け咲きほころび、夕方には閉じてしまいます。さて
今年1年で酵母菌が採れるかどうか分かりませんが、
元気な酵母が採れ、みなさんの
ところに芳しい『わたのぱん』が
お届けできる日を願ってください。



編集後記



今年は4月19日に始まり、5月15日までに6箇所の種まきに伺うことができました。みなさんが昨年よりも改善した方法で試みてくださり感謝しています。
発芽状況は昨年よりも良いように感じます。今年はみなさんの要望に少しでもかなう品種を探すべく、大陸綿4品種、アジア綿2品種を試作しています。
経過状況などお知らせいたしますので、楽しみにしていてください。

（川辺）